第一回伊東市新図書館基本構想策定委員会　議事録

日時：令和２年７月 13 日（月）15 時 00 分～17 時 10 分
会場：伊東市役所庁舎　低層棟３階　議会棟　第２委員会室

「出席」

伊東市長	小野達也
伊東市教育委員会教育長	髙橋雄幸
委員長	植松貞夫
副委員長	竹之内禎
委員	大村涛子
委員	辻　恵
委員	溝口　玄
委員	齋藤秀輝
委員	上村眞理子
委員	池田千栄子
委員	石川弘夫
委員	齋藤克子

「事務局」

教育部長	岸
生涯学習課長	杉山
生涯学習課長補佐	鈴木
生涯学習課主事	奥田
伊東図書館館長	鈴木
伊東図書館	菊池
伊東図書館	渡邉

第一回伊東市新図書館基本構想策定委員会　次第

日時：令和２年７月 13 日（月）
15 時 00 分～17 時 10 分
会場：伊東市役所庁舎　低層棟３階
議会棟　第２委員会室

開会
１　委員委嘱
２　市長あいさつ
３　委員自己紹介
４　伊東市新図書館基本構想策定委員会について
５　正副委員長選出・あいさつ
６　議事
⑴　委員会の運営等について
⑵　今後のスケジュールについて
⑶　前提条件の整理と課題について
⑷　その他
閉会

配布資料
【資料１】伊東市新図書館基本構想策定委員会設置要綱
【資料２】伊東市新図書館基本構想策定委員会委員名簿
【資料３】伊東市新図書館基本構想策定委員会の運営等について
【資料４】今後のスケジュールについて
【資料５】前提条件の整理と課題について

１　委員委嘱

２　市長あいさつ

コロナウィルスの関係で、当初の予定とは大幅に変更となったが、ようやく本日開催に至った。２年前の地域タウンミーティングで伺った貴重なご意見と、これからの時代にあった色あせない図書館、ときにはリニューアルし、さまざまな時代にあわせた図書館として、できれば本の貸出だけではなく、市民の憩いの場となる夢のあふれる基本構想ができればと考える。図書館の建設場所については、以前に購入したマンダリンホテルの跡地に決定している。私の希望は、いわゆる図書館というイメージよりは、「お茶を飲みたい」と思ったときに気軽に利用できる場所であって欲しい。また、先人が作り上げた様々な歴史、そういうものを披露する場にもなろうかと思うので、期待している。みなさまの良い知恵を集積していただき、より良いものを作って頂けるようお願いしたい。

――市長、教育長、公務のため退席――

３　委員自己紹介

各委員自己紹介。続き、事務局より挨拶。

４　伊東市新図書館基本構想策定委員会について

事務局より、資料１「伊東市新図書館基本構想策定委員会設置要綱」に基づき策定委員会の説明

５　正副委員長選出・あいさつ

事務局より、委員会の委員長及び副委員長の選出について、伊東市新図書館基本構想策定委員会設置要綱第５条第１項及び第２項の規定により、委員長は、学識経験者のうちから、委員の互選により定めるとの規定があることを説明し、委員からの提案を求めた。竹之内委員から委員長として植松委員を推薦する旨の提案があり、承認された。続いて、植松委員長から副委員長として竹之内委員を推薦する旨の提案があり、承認された。以降は植松委員長により議事を進行した。

６　議事

⑴　委員会の運営等について

事務局より、資料３「伊東市新図書館基本構想策定委員会の運営等について」に基づき説明

（委員による質問・意見無し）

⑵　今後のスケジュールについて

事務局より、資料４「今後のスケジュールについて」に基づき説明

（委員による質問・意見無し）

⑶　前提条件の整理と課題について

事務局より、資料５「前提条件の整理と課題」に基づき説明

○大村委員

図書館の浸水について、質問。建設予定地が、津波浸水想定地域（0.3m～２m）、洪水浸水想定地域（1.0m～5.0m）とあるが、図書館を上層階に設置すると利用しにくいと思われるし、下層階だと津波や洪水の時に被害が出る。その辺はよく検討すべきと考える。

○植松委員長

昔は１時間に 50 ミリ雨が降ることは絶対にありえないという想定のもと、建物を設計していた。今は、１時間に 100 ミリなどもありうるため、実際に各地の図書館で浸水被害が出ている。また一般に図書館はバリアフリー化により、入口の段差を無くしたことでほんのちょっとの浸水で本が水浸しになることもあった。茨城県常総市の図書館では、川の氾濫で館内が水浸しになり、電気も止まり、建物中がカビだらけで再開するまで１年ほどかかったということもあった。今回の建設予定地である津波想定地域に建てる図書館は、１階は浸水を想定したうえで、本や資料を置くのでなく、イベントスペースにするなど、設計上検討する必要がある。

○齋藤克子委員

建設予定地であるマンダリンホテル跡地の海抜表示や、伊東大川との高低差なども明記して頂けると良い。

○大村委員

伊東市文化財管理センターに保存されている古い資料は、ほとんど廃棄されると聞いたが、非常に貴重な資料であると考える。そういったものをマイクロフィルム等に保存するなど、どんな形であれ新図書館で保存できないか検討して欲しい。

○事務局：杉山課長

資料を廃棄することは無いと思うが、マイクロフィルム化は、今一般的なのか。

○植松委員長

マイクロフィルムは酸化などによる経年劣化があるため、保存に適さないということが分かり、現在ではデジタル化が主流だ。

○事務局：杉山課長

現在は、歴史的資料や郷土資料を文化財管理センターと図書館に分散して保存しているが、全体でどれくらいの量があるのかも含め、今後は図書館に一極集中するのか、だとすればスペース的に可能なのか、文化財管理センターとの住み分けもあわせて検討する必要が

あると考える。

○植松委員長

その資料は紙か？

○事務局：杉山課長

ほとんどが紙である。一部マイクロフィルム化したものや、デジタル化したものもある。

○辻委員

新図書館の建設に関する地域タウンミーティングの結果を見たが、今後最も利用して欲しいと考える小中高生等の子どもの意見をまだ聞いていないと思うが、今後聞く予定はあるのか。

○事務局：鈴木課長補佐

令和２年８月 30 日から開催される市民ワークショップにおいて、市内の中学校から各校２名×５校の 10 名と、市内の分校含めた高校から２名×３校の計 16 名が中高生の代表として市民ワークショップに参加する予定である。小学生をターゲットに実施することは、今のところ予定していない。市の企画課が年に１度実施している、18 歳以上の市民の中から無作為で 2,000 人を対象に行う「市民満足度調査」に、図書館に関する項目があり、直接ではないが、子育て中の保護者を通し、小中学生の子どもの意見が反映されるような機会を設けている。

○辻委員

私自身が子育て世代だが、地域タウンミーティングの意見を見ると、大人だけから出された意見であると感じた。「こんな本があったら嬉しい」、「こういうものを読みたい」、「こんな図書館なら行ってみたい」等、これから利用して欲しい世代の意見は重要で、もう少し反映されるべきと考える。伊豆半島はジオパークに認定されており、葛城山、大室山など色々な見学の場がある。また、「一碧湖の赤牛伝説」は有名だが、それすら知らない小学生がいる。ジオ見学を授業の中で取り入れている学校もあるが、せっかく郷土の本などもあるのに、図書館にそういう本があることを知らない。地元である伊東に関して、こんな本があるんだともっと周知することが大事だし、読書離れをなくし、「こんな図書館だったら行ってみたい」と、そう思ってもらえる図書館を作るためにも子どもたちからの意見を聞く場があってもいいのではと考える。

○事務局：鈴木課長補佐

できるかどうかは分からないが、学校側とも調整する中で、場を設けるような何かを検討したいと考える。

○植松委員長

ほかに何かあるか。では続き、資料５「前提条件の整理と課題」の P21～22 にある７項目について。これから図書館を作るにあたり認識すべき課題だが、ほかにこういう項目も追加した方が良いなどの意見はあるか。伊東市は宇佐美から川奈地区までの海岸沿い、南部の伊豆高原駅周辺（八幡野地区）、新図書館の建設予定地のある伊東駅に近い中心市街地と３つ

の地区に分かれているが、特に八幡野地域への拡充について、具体的に何か考えているのか。

〇事務局：鈴木課長補佐

南部地域を含めた市域全体の図書館サービスについてだが、「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」や地域タウンミーティングなどでもそういった意見があった。南部地域の住民の方たちからは、「自分たちの街にも新しい図書館を」という意見も多く頂いたが、図書館はそれなりの規模の敷地が必要であり、現在伊東市が保有している土地から、旧マンダリンホテル跡地に図書館を単独で建設すると決定された経緯がある。人口が増加している川奈地域、大池小学校区などは、市街地から車で 10 分くらいだが、南部地域は車でも 20～30 分かかるため、そう頻繁に訪れられる距離ではない。そのため、ネット予約などを活用しながら、伊豆高原駅周辺で本の受取や返却が出来るようなサテライト図書館が実現できれば理想的であると考えている。

〇齋藤秀輝委員

これからの図書館像を考えた時に、本の貸出など昔ながらの、本来の図書館の在り方も重要だと考える。ただ、例えば、種田山頭火、伊東祐親（すけちか）や三浦按針（あんじん）、中村敬宇（けいう）、川端康成などの文化人、彫刻家の重岡建治など、伊東ゆかりの人物は数多くいるが、子どもたちはあまり知らない。美術館などで行われている企画展などのように、図書館の中で伊東祐親展をやるとか、子どもたちが伊東を知るひとつのきっかけになるようなものを提供できるような図書館であり、文化ホールであって欲しいと希望している。

〇事務局：鈴木課長補佐

伊東市の歴史、伊東市ゆかりの人たちのエリア、そういったところは設けたいと考えている。図書館は知的財産の共有というのが、ひとつの大きな指針にあるので、伊東市の今までの歴史・地域資料、伊東市の情報が掲載されている参考資料を置くスペースなど、図書館本来の在り方として、伊東市の情報センターを担うような場所でありたいと考える。

〇植松委員長

資料５「前提条件の整理と課題」の Ｐ７において、「図書館・文化ホール建設に向けた検討会が作られ、検討された」とあるが、ここで指す「文化ホール」とはどういうものを想定しているのか。

〇事務局：鈴木課長補佐

音楽祭や発表会など、催事をやるような施設を指している。市長の公約の中では、図書館と文化ホールの複合施設も見据えていたが、適正な敷地が無いことや、図書館は静かな環境で、文化ホールは音楽など音を出す施設、と各々の本来の目的が違うという意見も踏まえて、単独で建設することが決定した。

〇植松委員長

齋藤秀輝委員の発言にあった「文化ホール」とは、伊東ゆかりの人たちの作品を展示する等のスペースとして、図書館の中に設けることを考えていると受け取ってよろしいかと考える。

〇石川委員

郷土の偉人というと、伊東市出身の偉大な医学者、文学者、画家の木下杢太郎がいる。木下杢太郎は、「伊東は、小生の生まれた所で、もし大地に乳房というものがあるとしたら、小生にとってまさにそれです。」と書いている。木下杢太郎にとって、伊東は心のふるさと・原点だったと思う。ぜひ新図書館に木下杢太郎のコーナーを作って頂きたい。

〇大村委員

資料５「前提条件の整理と課題」P22 図書館の課題⑦の新型コロナウィルス感染症等への対応について。非来館型のサービスを導入・提供し、とあるが、三島市の図書館へ行った時、本の消毒機が設置されていた。これからも引き続きいろいろなウィルスとの闘いがあると考える。そういった機器の導入も検討して頂きたいと考える。それと、こども図書館は併設するのか。

〇事務局：鈴木課長補佐

こども図書館という館を作ることは想定していないが、こどもエリアは重要と考えるので、敷地面積の許す範囲で可能な限り広いスペースをとりたいと考える。「子育てしやすい街づくり」は市長の大きな公約のひとつでもある。子育て世代の利用者が、子どもが読書している横で、自分も好きな本を読書出来るようなエリアは、しっかりと設けていきたいと考える。

〇植松委員長

話に出たコロナウィルス感染症等の対応として、本の消毒機はもちろんだが、その前に職員との接触を減らすため、自動貸出機の導入も検討する必要があると考える。セルフで貸出から消毒まで行い、家に持ち帰る。そういったことが今は一般化しており、そのためには資料５「前提条件の整理と課題」の P22⑥の ICT 等最新サービスにあるように、すべての本に IC タグを貼付して図書を管理し、セルフサービスによる貸出を行う。IC タグ、セルフ貸出機、消毒機は１セットとして考えるとよい。ほかになければ、議事の「その他」に移り、次回からの検討のために各委員に、新図書館についての考えを伺いたい。

⑷　その他

〇竹之内副委員長

伊東は「観光」がキーワードのひとつ。今まで見た図書館の中で印象的だったのが、沖縄県の恩納村にある図書館。沖縄県に関する本と世界に関する本を月ごとに更新して設置し、本で旅してもらう「ブックツーリスト（BOOK TOURIST)」というコーナーを設けていた。地域の発信ももちろん大事だが、グローバルな本も一緒に置くことで、世界にも目を向けて頂くという取組が良いと感じた。このコーナーは壁一面使って大々的にやっており、浸水・洪水の件で新図書館の１階スペースにあまりものを置かない設定であれば、こういった企画などをやるのも良いのではと考える。加えて、地域の住民の方たちはもちろんだが、市民以外の方々、地域外にお住まいの方々にも応援してもらえるような、関わりたくなるような、

魅力ある何かが出来る図書館になれば良いと考える。

〇大村委員

資料５「前提条件の整理と課題」の中にブックカフェについて記載があったが、個人的に柳美里さんが携わっているブックカフェ「フルハウス」や、神奈川県の「大和市文化創造拠点シリウス」などを実際に利用して、ハード面ではなく精神的な部分でどのような癒しがあるのか、ソフト面も経験して検討したいと考える。

〇辻委員

小さい子どもを連れた保護者も、足を延ばして一緒にゆっくりと本を読めるようなスペース、そして気持ちが安らげるような図書館であったらいいと考える。小中高と、大学になっても「この図書館で調べものしたい」「この図書館ならこんな本もあるかも」と本を読む意欲がわく図書館になるといい。３年ほど前まで住んでいた神奈川県の二宮町に「生涯学習センターラディアン」という、図書館とホール・会議室などが併設された複合施設があったが、窓も大きく開放感があり、蔵書数も多く、併設されているカフェでお茶を飲みながらゆっくり静かに過ごせるような図書館だった。ホールと併設されていても、こんな風に快適にゆったり過ごせる図書館があるんだと印象に残っている。子どもだけでなく、全世代に利用しやすい、行きやすい図書館づくりになるといいと考える。

〇植松委員長

資料５「前提条件の整理と課題」の P23 にある「大和市文化創造拠点シリウス」には、こども広場というのがあり、託児サービスも行っている。託児サービスを利用することで、保護者はゆっくり本を探したり、調べものをすることが出来る。最近は、こういったサービスを多くの図書館で取り入れており、福島県にある、図書館との複合施設「須賀川市民交流センターtette」でも行われている。講演会などの時も、子どもがいると参加できないという場合もあると思うが、そういった場合も、ガラスに囲われた中で小さなお子さんが泣いてもほかには声が漏れないような作りをしている施設もある。

〇溝口委員

私自身、現図書館もそんなに利用したことが無いが、行きやすくするためには交通の便を良くすることが第一条件だと考える。またカフェというのも、みんなが行きやすい図書館になりうると考える。中高生が「勉強をしに図書館へ行く」というのはあっても、「本を読みに図書館へ行く」というのはあまり聞かない。その根本をたどると、小中学校の時にあまり本に関わっていないことが原因ではないかと考える。さきほどの辻委員の意見のように、小学校の頃から授業で伊東のことをもっと学ぶ機会があり、家庭でも幼い頃から「図書館はこういう場所で、こう利用するもの」と教えられれば、もう少し身近に感じられるのではないか。授業で図書館に関することを教えることなども、大事なのではと考える。託児コーナーについても、保護者が子どもを預けられ、ゆっくり過ごせるということもあるが、預け先が図書館という環境も、子どもにとって図書館に親しめる良い機会になるのではと考えるので、必須なサービスだと考える。

○植松委員長

Ｐ６にもあるが、子どもの読書活動の推進に関する法律が定められており、地方公共団体がそれぞれ「子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進を図っている。

○齋藤秀輝委員

伊東を知ることが出来る図書館、そして図書館に行けば伊東が知れると思われるような図書館を作れたらいいなと考える。伊東ゆかりの人々の資料の設置や、子どもたちにも分かりやすく興味を引くような展示等が出来たらいいと考える。今、話に出た「子ども読書活動推進計画」は私も昨年、関わった。今やネットワークですべてが繋がる社会なので、たとえば学校の図書館に読みたい本が無ければ、伊東の図書館やあるいは市の公立小・中学校の図書館にもネットワークが繋がり、オンラインで探すことができる等出来たらいいと考える。

○植松委員長

いまは繋がっていないのか。

○事務局：杉山課長

繋がっていない。

○上村委員

子どもが本離れをしないような環境を作るためには、まずは親子で楽しめる場を作ることだと考える。親が連れて行かなければ、小さな子どもは行けない。まずは保護者である大人が魅力的だと思えるような図書館であるべきで、行ったときに子どももまた来たいと思ってもらえるようなコーナーづくりや、例えば靴を脱いで、保護者と子どもが一緒にリラックスできるようなスペース、子どもたちの手が届きやすい本の配置などの環境も大事だと考える。

○池田委員

子どものいるご家庭で、図書館の近くに住んでいても、あまり利用しないという方もいる。さきほども話に出たが、まずは大人が関心を持てないと子どもも連れて行かない。カフェや広場、駐車場の確保、子育てにあわせたトイレの機能など、工夫したり機能を充実させることで、利用者にとって身近な存在となるような図書館を考えたい。そして特に小さい子ども向けには、床に直接座ったり、ときにはゴロゴロしたりしながら読めるスペースがあり、少々大きな声で話しても大丈夫なスペースづくりが大事だと考える。今後は私自身も、子育て世代の方から情報を収集したり、最新の図書館事例など、いろいろ調べてみたい。新図書館は夢のある存在でありたいし、みんなで色々な意見を出し合ってより良いものに出来たらと考える。

○事務局：鈴木課長補佐

さきほど、図書館と文化ホールを分ける決定に至った経緯として、文化ホールは音が出るもの、図書館は静かに学習するものと発言したが、事務局側もいろいろ視察していく中で、いまの図書館の在り方として、親子連れや小中学生が多少わいわいがやがや騒いでも、ほかの利用者に気を遣わずとも大丈夫なようなところが多いと理解している。視察した東京都

武蔵野市の「武蔵野プレイス」という図書館では、わいわいがやがやした暗騒音が適度に心地よく、リラックスした中で本に触れることが出来る、そんな施設だったので、そういったものも参考にしながら多くの方が訪れることが出来る図書館にしたいと考えている。

○植松委員長

近年作られている図書館では、館内で話が出来るのが大多数。逆に、静かになりたい人が入る部屋を作る傾向にある。それと子育て支援の話が出たが、いくつかの図書館では、市役所や保健所では敷居が高いと感じている子育てに悩みを持った若い保護者の相談先として、館内に気軽に相談できる窓口を設けている。

○石川委員

私は、子どもの読書に関する関心を高め、豊かな心を育む絵本の読み聞かせやおはなし、手遊びなどを行う伊東図書館の「おはなし会」にボランティアとして所属している。現代は、テレビ・ＤＶＤ・スマホなど機械を通した声があふれている。このような社会環境の中で、子どもが本好きになるには、赤ちゃんの頃から肉声によるおはなしをたくさん聞かせることが大事だと考える。現在、毎週土曜日に、伊東図書館子ども閲覧室で絵本の読み聞かせ、おはなしや手遊びなどを行っている。ぜひ新図書館に明るくゆったりしたスペースの中で子どもがおはなしを聞くことができるコーナーを作っていただきたい。併せて、生涯学習センター中央会館において、年３回「季節のおはなし会」と称し、おはなしや手遊び、アニメ映画の上映などを行っているが、新図書館にもぜひ、映画の上映や、絵本の原画展、講演会など、100 人程度収容できる多目的ホールを作って頂きたい。また、ボランティア会員は、定期的に生涯学習センター中央会館の研修室で勉強会を行っているので、新図書館にも 20～30 人収容できる研修室を作っていただきたい。さらに、暗幕や拍子木、看板など、ボランティアが所有する小道具類を保管できる倉庫もお願いしたい。

○齋藤克子委員

作家さんを呼んでのイベント等も行っているが、人気のあるイベントだと 100 人入るスペースに 130 人ほどの親子が来ることもある。そんなとき、歓声など、周りを気にせず楽しめるスペースがあれば良いと考える。また、例えば会場内照明を企画に合わせ部分的につけたりけしたりできる柔軟な設備があればと考える。まず保護者が本と関わらないと、子どもも関心を持つわけがない。さきに発言があった託児サービスは保護者の方が本をゆっくり探したりできるので、良いと考える。中学生の子どもと話をする機会もあるのだが、「読みたい本が図書館に無い」などの声も聞こえる。かといって、本にお小遣いの多くを回せるほどの余裕はなく我慢する等の声も聞く。これは、自分で本を選ぶ事のできる幅広い層の子どもたちに対応した広範囲の本を置くことが一番だと考える。また、屋上に人がくつろげるスペースなどを作れば、イベントを開いたり、防災面的に避難場所としても利用できるのではと考える。

閉会